

日本室内設計家協会の誕生

元・理事／前・事務局長 森谷 延周



はじめに：JIDの創立50周年記念事業は無事に終了した。私はこの間、折りにふれて「だれが提唱してこの協会が発足したか知っていますか?」と聞いたが、ほとんどの会員が知らなかった。という私も当時のすべてを知っているわけでもないが、50周年終了のこの機に、読んだり聞いたりしたことを基に記すことにした。

もし誤りがあればご指摘頂きたい。

日本室内設計家協会(jid)誕生の気運



この名称は現在の(社)日本インテリアデザイナー協会(JID)の前身の呼称で、昭和33年(1958年)11月24日に任意団体として発足、ロゴマークはアルファベットの頭文字をアレンジしたものだった。

今から50数年前、デザインに関わる組織活動体をつくらうという大きな社会的気運があった。そんな中、昭和27年に日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)、昭和31年に日本デザイナークラフトマン協会(現・日本クラフトデザイン協会)がそれぞれ発足した。したがって私たちの協会は、日本デザイン団体協議会(通称:D-8)の中では3番目の発足である。

「室内設計家」という名称は、「建築設計家」に対して、専門的職能の独立を意識した名称だったと思われる。

その提唱者



まず始めに、豊口克平(写真上)の自著「夫婦 50 年」の年譜の一節を紹介する。(原文のまま)

—1958(昭和33)日本室内設計家協会(現 日本インテリアデザイナー協会)設立を中西三郎氏(写真下)とともに提唱、同年設立実現。昭和33~51まで理事(4年間理事長)—また豊口は、JIDの機関誌 No.110 号「JID 創立 30 年史」の一節の中で、発会前に隅田隆治・狩野雄一・

桜井定雄・大泉博一郎らの名前を上げながら、「親しい連中はみな賛成してくれて、話を始めて1年くらいで発会式にこぎつけました。剣持君はもちろん渡辺力君も集まってきましたね」(原文のまま)と語っている。

豊口は、この発足実現の翌年に、26年半在職した産業工芸試験所を退所、念願だった豊口デザイン研究所を設立し、フリーランスデザイナーの道を歩み始めた。

一方、中西は総合デザイン研究所を自営するかたわら、当時では珍しい専門月刊誌「ニューインテリア」の編集長を勤めながら自らも執筆に腕を振るった。そして研究所の中に、歴史ある「日本木材工芸学会」の事務局を置きながら、発足した協会の事務局を併設するなど、多面的な協力を惜しまない人だった。

発会に向けて

前述の2人を中心に、すでに応諾を得た人々の輪が広がって、発会に向けて28人の「設立発起人」が揃った。そして設立準備委員会が構成され、「定款」「会員規定」「入会への案内文」などを作成した。ちなみに定款第3条には、「本会は会員相互の協力により、室内デザイナーの社会的地位をまもり、生活文化ならびに産業経済の進展に役立たせようとするものである」(原文のまま)と記されている。発足への具体的準備を終え、設立発起人は手分けして入会を募る活動に入った。

<設立発起人>

岩瀬要三・宇佐美滝三郎・大泉博一郎・奥平貞俊・狩野雄一・倉林益太郎・剣持勇・坂田種男・桜井定雄・佐々木達三・白石浩二・鈴木富久治・玉田郁郎・豊口克平・中井太一郎・中西三郎・中村富夫・西海健彦・野口寿郎・藤森健次・松村勝男・水谷文平・水之江忠臣・宮内順治・森田良夫・山口勇次郎・渡辺安吉・渡辺力 (50音順)

設立総会の会場は東京・港区の「虎の門共済会館」、日時は昭和33年11月24日。議事には定款制定と役員選挙の件と記されている。なお、「会員規定」で正会員の入会金は1,000円、年会費は3,600円(月額300円)とした。

また、「会員名簿」も発足時に発行され、そこには役員一覧と79人の正会員が掲載されている。そして当時の13人の方々が、今なお健在で在籍されている。

正会員／泉修二・川上信二・白石勝彦・渡辺優
名誉会員／今井滋・古藤司郎・坂田種男・長大作・中村圭介・西澤圭三・武笠士郎・村尾平格・渡辺力

設立発起人の1人・坂田種男名誉会員



去る2月16日、設立発起人28人のうち、健在でしかも継続在籍の坂田種男名誉会員のお宅に私が訪問、当時のことを伺った。

以下はその概要である。

「私は82才。体を考え少しずつ仕事を減らしている。発起人の話は狩野雄一さんから聞き即座に賛同した。当時、インテリアは建築の一部としてとらえられていた。そして会話では「インテリア」といっても、文章になると「室内」で、「定款」や「会員規定」も室内デザイン・室内デザイナーと書き表した。発会時の空気は、専門家としての職業意識・独立意識は強かったが、だからといって強く血気に満ち溢れたものではなかった。これからのJIDには、もっと社会的認知度を高めてほしいと願っている」

任意団体～現在

発足時の定款第2条「本会は本部を東京都に置き、主要な土地に支部を置くことができる」(原文のまま)を受けて、翌年(昭和34年)に大阪支部(会員49人)が発足した。その後、昭和39年に九州支部が発足し3支部制となった。そして昭和44年に法人格を取得、(社)日本インテリアデザイナー協会と改組、また認可と同時に支部を「事業支部」と改称した。さらに昭和46年に中部事業支部が発足し、現在の本部および4事業支部制によって運営されている。

協会のロゴマーク



発会から15年有余、協会のロゴマークにはいくつかの移り変わりがあったが、いずれも決定的なものではなかった。そして昭和49年頃、

理事会で刷新することが論議され、外部のデザイナー(高浦威/グラフィックデザイナー)にそのデザインを依頼した。その後3案の提示があり、理事会の意向によって全会員485名(社)を対象にアンケート調査を実施、回答数62%、120通を占めた現行のものが決定した。また同時に協会名の日本字・英字表記のデザインも決まり、現在、日常的に使われている。